苦手意識克服！
脱ITオンチ経営

分かっているつもりで分からないことの多いＩＴ。経営に不可欠なＩＴを毎回違った切り口で紹介、解説します。今回のテーマは、「クラウド活用入門」です。

ＩＴオンチでもわかるクラウド活用入門

「すぐに連絡を取りたいのに、Ｉさんの名刺はオフィスの机の中だ」

海山商事のＭさん（仮名）は、出先からあせって会社に電話して同僚のＡ君に探してもらいましたが、名刺が見つかりません。Ｉさんの連絡先が分からずＭさんは大きな商談を逃してしまいました。

「なぜクラウドサービスを使っていないんだ！」Ｓ部長から大目玉を食らうＭさん。ほかの社員も頷いています。

「クラウドサービスで、名刺を管理する？どういうことなんだ？」ひとり悶々とするＭさんなのでした。

ネットを経由すればどこからでも利用できる

「クラウドサービス」と聞くと難しく聞こえますが、私たちはすでに、メールや写真の管理、文書の作成など、ごく自然にいろいろなサービスを利用しています。これまでは、パソコンにそれぞれの専用ソフトをインストールし、作成した各種データは、パソコンのハードディスクに保存していましたが、これに対しクラウドサービスではパソコンにソフトをインストールすることなく、インターネット経由で作業を行い、各種データはネット上に保存されます。そのため、利用者はネットに接続できればどこにいてもソフトやデータを利用することができます。

「ネットを経由すればどこからでも利用できる」クラウドの一番の特徴です。

無料で使えるクラウド型名刺管理サービス

クラウドサービスの利点は、システムやデータをどこからでも使えるということだけではありません。ネットを介して最新のシステムやデータに随時アップデートできるという特性によって、これまでとは異なるサービスが提供されるようになっています。

たとえば、クラウドを活用した名刺管理サービス（以下、「名刺管理サービス」という）では、利用者は名刺を専用アプリで撮影しておくだけで、利用者はほとんど手間なしで手元のスマホなどで名刺データを確認することができます。業者は、ネットワークを介して送られた画像から、手動でデータを入力し利用者に提供するので、利用者はまったく作業をする必要がないのです。しかもこのサービスは、基本機能だけなら無料で利用できるというから驚きです。冒頭で紹介したＭさんの歯ぎしりが聞こえてきそうですね。

使わないのは大きな損失。積極的な活用を

いまでは業務で活用するシステムの多くがクラウドサービスとして提供されるようになっています。また、システムは相互に連結され、さらに便利なサービスに進化を始めています。

例えば、お店にあるレジがクラウド化されることによりクラウド型会計システムと連結され、レジを打つだけで販売データが会計システムに取り込まれ、ほとんど自動でデータ登録から基本的な仕分けまでが完了するサービスが安価に利用できる時代になっています。名刺管理サービスもそうですが、こういったものを積極的に利用している会社とそうでない会社では業務のスピード感やかかるコストに大きな違いが出てくることは確かです。また、不要な作業が減ることにより、優秀な社員をより付加価値を生み出す業務に従事させることもできるようになるはずです。

いかがでしょうか。「ＩＴはよくわからないから…」という理由で、クラウドサービスを利用しないことは大きな損失です。今からでも遅くありません。ぜひ、自社にあったサービスを活用していきましょう。

ＩＴ研修や無料相談のお問合せ先

(公財)ふくい産業支援センター
販路開拓支援部
創業・Ｅビジネス支援グループ
TEL 0776－67－7411